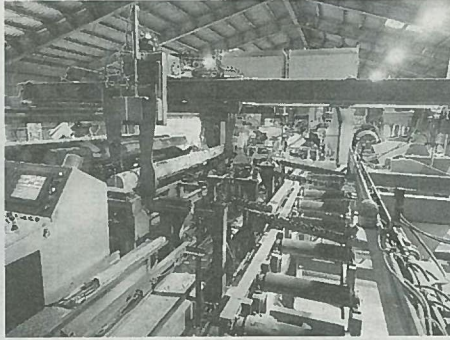


省人化・生産の効率化を図る

宇和国産材加工協組



加工設備の更新回生産効率アップ

品目増やしニーズに応える

同協組の年間丸太消費量は2万3000立方メートルで、杉50%、桧50%の割合だ。現状第1工場にツインバンドソーを設置したほか、既3000立方メートル増加した。

同協組は投資の負担を抑えるため、新規設備を導入するのではなく中古機械で工場の整備を進めてきた。井上代表理事は「新規の機械設備を導入するためには助成金を使うと増産のノルマが掛かってくる。増産のための設備投資では赤字になる可能性がある」と、丸太高製材を見込んで

宇和国産材加工協組(愛媛県西予市、井上誠一郎代表理事)は、生産の効率化・省人化を図るために設備更新や付帯整備の設置等を進めている。来年明けに終了する予定だが、春ごろに大径材への対応を検討している。また、働きやすい環境づくりにもこだわっている。

今後は、年末に耳すり機の自動化、年明けにギヤングソーの入れ替えを予定している。これにより年間丸太消費量3万立方メートルを見込んで

10月の台風19号による被害総額は56億4700万円と甚大なものになっている(20日時点)。これに対し、栃木県議会は11月補正予算で災害からの復旧予算を議決し、損傷した林道の復旧や治山工事、自然公園等施設の復旧についても計10億4050万円の予算が組まれた。県内の出材

品安など市況に合わせた生産調整ができていない。人員不足を解消するための人材確保が重要であり、増産というより生産の効率化、従業員に負担が掛からない体制の整備を図っていること話す。

同社は1〜2年前から丸太の皮むき設備や木屑焚きボイラー、モルターや搬送設備の更新を行っている。

また、現在は柱・土台を主体に生産しているが、先行き加工板原盤や役物、グリーン土台・梱包材など、顧客ニーズに添って生産品目を増やしていく方針だ。大型工場にはできない小回りの利く体制を目指す。

受注発注アプリを開発中

IoT化で受注・配送をスピードアップ

フルタニランバー

フルタニランバー(石川県金沢市、古谷隆明社長)は、受注発注管理アプリの開発を進めている。運用開始は来年1月の予定で、導入されれば受注の効率化及び対応力強化が果たされる。また在庫管理にも最新技術を導入しており、業務のIoT化が目覚ましい。

開発中のアプリは、取引先からの受注情報が倉庫内で作業するフォークリフトオペレーターにタブレット端末にも届く仕組みで、受注した資材のピックアップ効率が格段に高まる。従来は、営業担当

が取引先から受注した情報を、オペレーターが事務所で書面を確認するなどの段階を踏んでいた。アプリによる通信による情報認識システムRFIDを採用。RFIDリーダーを持つ作業員が倉庫内を歩けば、リーダーが

資材に付したRFIDチップの電波を読み取り、在庫位置や在庫状況が即座に把握できる。同社の取扱品は自社品や顧客からの預かり品で4800以上あり、これまでは棚卸作業等に多くの時間を要していたが、RFIDにより作業時間の劇的な削減につながった。

資材配送でも、顧客が発注した資材の納品時期を予測できるよう、配送過程の情報を顧客に送信できるシステムを導入している。

開発中のアプリ、RFIDのシステム、配送情報の配信というデジタル技術の連動により、古谷社長は「豊富な在庫が当社の大きな強み。業務のIoT化により納品までのリードタイムを短縮し、強みをさらに発揮していきたい」と話す。

栃木県は関東で最も素材生産量が多いが、林道の損傷による出材減少が長引くと、県内はもとより関東一円の需給バランスに影響が出ている。現在は、出材可能な林地からの伐採・搬出で丸太の供給は回復してきたが、使用できる林道が限られるため先細りの可能性も指摘されている。

特に林道は被害箇所が非常に多く、法面が崩壊したり土砂が流されて寸断したりするなどの1カ所当たりの損傷も大きい。さらに、住宅や道路、橋など生活圏内での復旧が優先されることや人手不足・技術者不足の面から、復旧はかなりの時間を要すると見られている。

こうした状況を踏まえ、栃木県森林組合連合会は各林道に湯器(GT)を設置し、湯器(GT)シリーズ、ガス温水暖房付ふる給湯器(GT)シリーズ)に対応できる。今回の接続連携により、HEMSコントローラーを使用した風呂の湯はり操作が可能になる。

新・今さら人には聞けない木のはなし

話題の連載、待望の続編登場!

なぜ人は木を食べられないのか? ヤニって何? 層とプライの違いって? 大きいほど強度は小さい?...

1話読み切り、連載50回分をまとめました。前書からさらにパワーアップした「目からウロコが落ちる」感動を体験して下さい。

編著者 秋田県立大学木材高度加工研究所長 林知行
体裁 B6判変形/238ページ 定価 1,800円+税、送料
ご購入は日刊木材新聞のホームページから

日刊木材新聞 検索

電話03-3820-3511 / FAX03-3820-3518

前書「今さら人には聞けない木のはなし」(定価1,500円+税、送料)も好評販売中。前書と2冊同時にご注文頂くと、「新・木のはなし」刊行記念特別価格として、2冊セット3,000円+税、送料でご購入頂けます。この機会にぜひセットでご注文ください。

日刊木材新聞 電子版にアプリ登場!!

専用のアプリで、より簡単に、よりスムーズに閲覧しやすくなりました。

1.自動ログイン機能
ホーム画面上のアプリアイコンを押すだけでマイページへ移動します。

2.閲覧の操作がスムーズに
上下にスクロールしてページを切り替え。拡大縮小もストレスなく動作します。

3.画質がクッキリと鮮明に
コンテンツを拡大しても文字がぼやけずに鮮明に表示します。

今すぐアプリをダウンロード

ダウンロードしたアプリ

App Store からダウンロード

Google Play で手に入れよう

※現行バージョンのブラウザ版も引き続きご利用頂けます。

お申し込み・料金・お支払いなどの詳細は <https://jfpj.jp>

検索